

「現代女性のペットへの思い」

「おしゃれ白書 1991～2000」より

「ペットのいない生活は寂しい？」と思う人は過去10年で**50%増加**。
年齢別では高校生、「**30～34歳**」未婚と**50代前半**が多かった。

2001/07/02

ポーラ文化研究所
村澤博人 阿保真由美

1. はじめに

「マンションで条件つきだが、ペットを飼育できるようになった」とか、最新のコンピュータの発達でペットロボットが登場するなど、ペットと人間の関係が今まで以上に語られる昨今である。

ポーラ文化研究所で実施してきている「おしゃれ白書」では、ペットについて「現代ではペットのいない生活は寂しいか」どうかを1991年来、問いつづけている。

そこで最新のデータ(2000)を含めてこの10年で「ペットへの思い」がどう変化したかを探ってみた。

今回扱った質問は以下の1問である。

Q33. あなたのご意見やお考えについておうかがいします。
あなたが適当と思われる意見に 印をつけてください。

「現代ではペットのいない生活は寂しい」

1. 全くそのとおり 2. ややそのとおり 3. どちらとも言えない
4. ややそうでない 5. 全くそうでない

2. 調査概要

「おしゃれ白書」はポーラ文化研究所が1979年以来継続している調査で、3年毎に実施している。今回のレポートでは1991年以降のデータを利用している。実施年により多少の人数の増減はあるが、ここでは「おしゃれ白書 2000」の概要を代表させては以下に示す。

調査地域：首都圏30キロ圏内

調査対象者：上記エリア内に居住する15歳からから64歳までの女性、910人

サンプルデザイン(単位：人)

15～18歳(高校生)	70	19～23歳(学生)	70
19～23歳(社会人)	70	24～29歳(未婚)	70
24～29歳(既婚)	70	30～34歳(未婚)	70
30～34歳(既婚)	70	35～39歳	70
40～44歳	70	45～49歳	70
50～54歳	70	55～59歳	70
60～64歳	70		

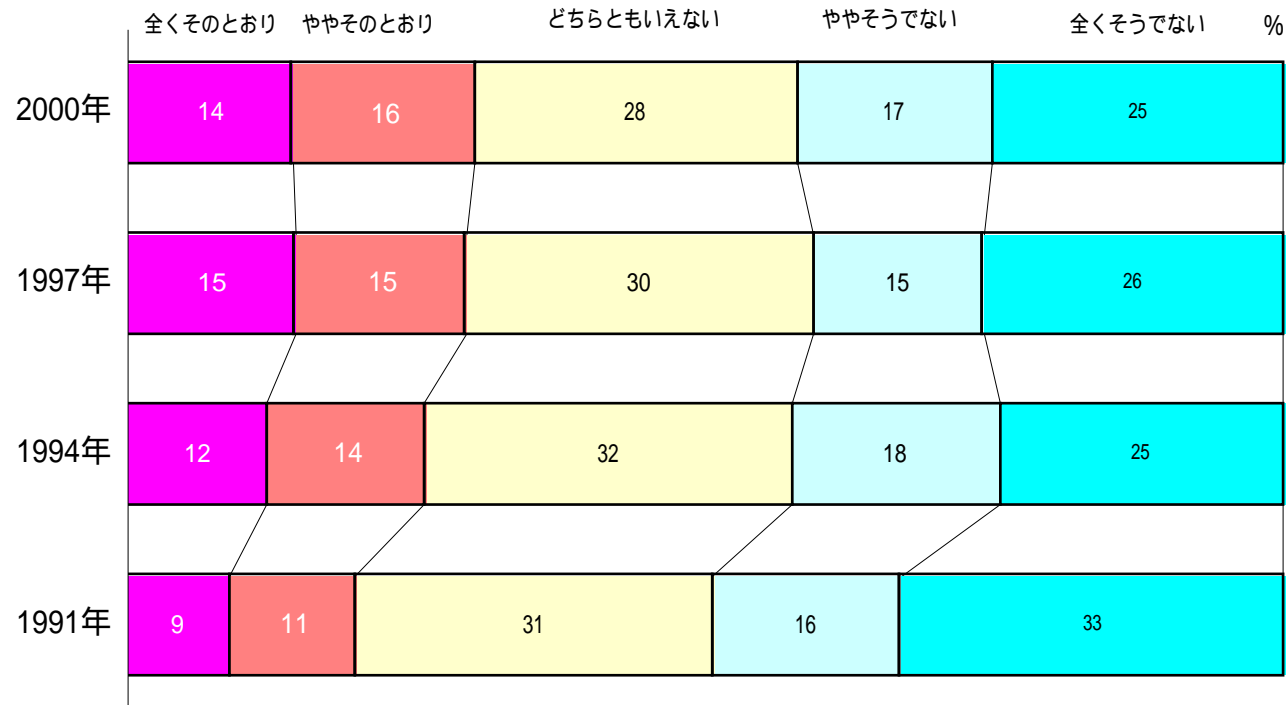
調査対象抽出法：エリアサンプリング法

調査方法：戸別訪問面接聴取法および留置法の併用

調査期間：2000年6月

3. 結果

「現代ではペットのいない生活は寂しい」経年変化



3.1. 「現代ではペットのいない生活は寂しい」経年変化

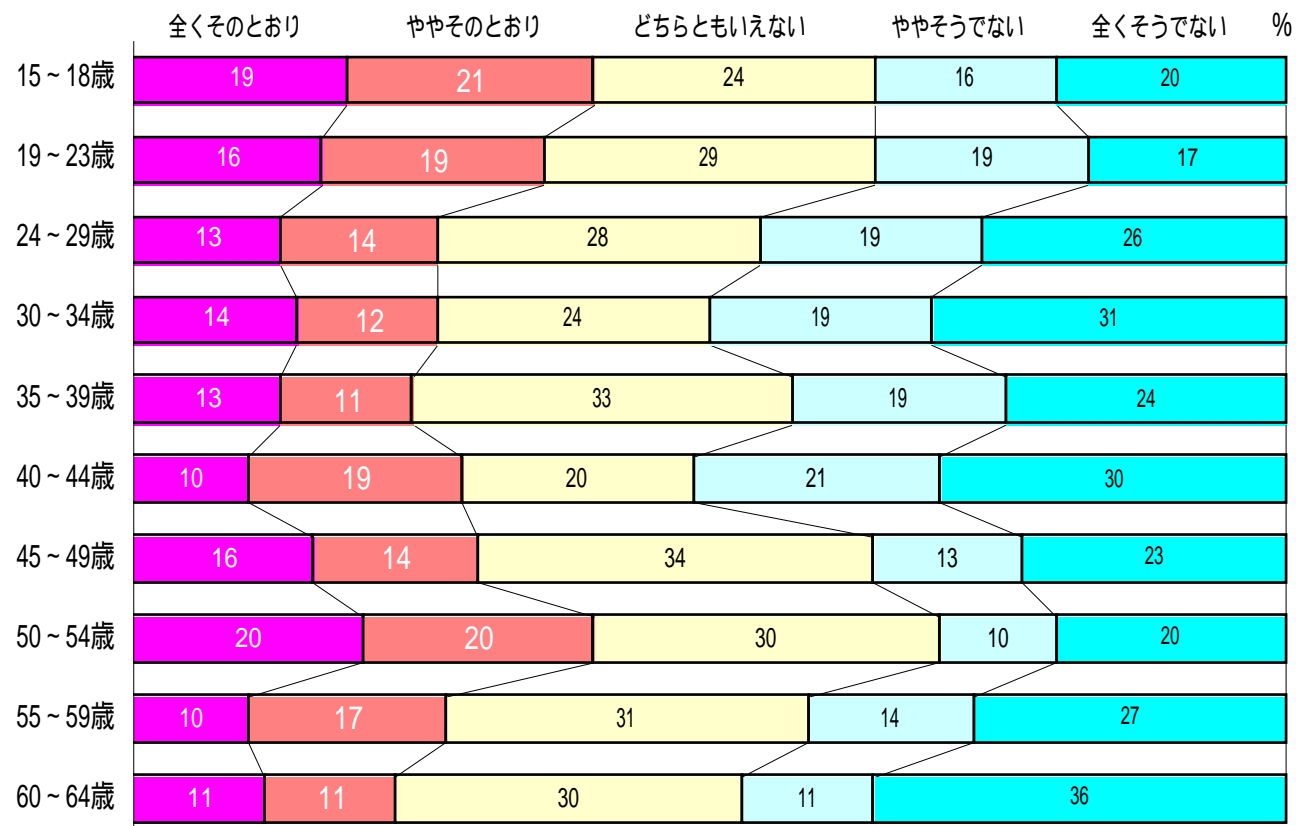
2000年の結果では「全くそのとおり」「ややそのとおり」を合わせた「そのとおり」は30%いた。逆に「全くそうでない」「ややそうでない」を合わせた「そうでない」は42%もいる。

全体としては「ペットのいない生活は寂しいとは思わない」人が多い結果であった。

1991年の結果は「そのとおり」は20%、「そうでない」は49%とほぼ半数であった。

1991年と2000年と比較すると、「そのとおり」は10%増、「そうでない」は7%減であった。1994年1997年を含めてここ10年間の変化は「そのとおり」は増加傾向にあり、「そうでない」は7%減少傾向にある。

現代ではペットのいない生活は寂しい？（2000年）



3.2. 「現代ではペットのいない生活は寂しい」年代別比較。

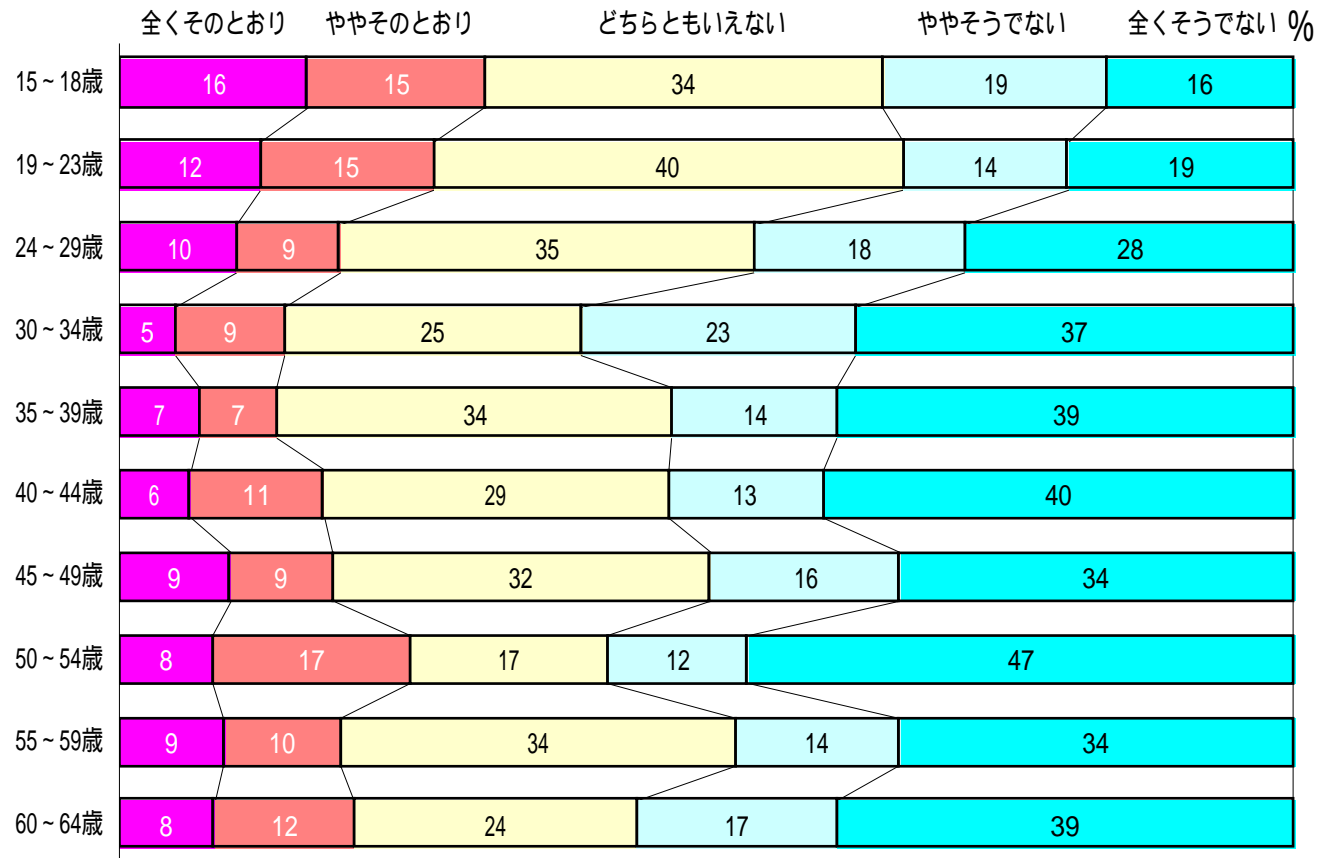
2000年の結果を年代別に見ると、「全くそのとおり」「ややそのとおり」を合わせた「そのとおり」は、「15～18歳」では40%で、「全くそうでない」「ややそうでない」を合わせた「そうでない」の36%よりも多い。

年齢が高くなるにつれて「そのとおり」は減少し、「そうでない」は40代半ばまで増加していく。ちなみに「40～44歳」が51%と一番高い値を示している。

「そのとおり」は40代に入ると増加し、「そうでない」は逆に減少する。「50～54歳」で一つのピークを迎え、60代前半に向かって再び「そのとおり」は減少し、「そうでない」は増加していく。

全体としては「50～54歳」が一番「そのとおり」と答え、かつ「そうでない」と思う人も一番低い結果である。

現代ではペットのいない生活は寂しい？（1991年）



3.3. 「現代ではペットのいない生活は寂しい」年代別比較、10年前の場合

1991年の結果を年代別に見ると、「全く」と「やや」を合わせた「そのとおり」は、数値こそ小さいがほぼ2000年の結果と同じ傾向を示している。すなわち「15～18歳」が高く、年齢が増すにつれ、支持率は減少し、40代に入ると増加し、「50～54歳」で一つのピークを迎え、再び60代前半に向かって減少していく。

それに対して、「全く」と「やや」を合わせた「そうでない」は「30～34歳」で60%、「50～54歳」で59%のピークを示した。30歳を超えるとほぼ半数が「そうでない」と回答した。2000年とは少し異なるパターンを示している。

「そのとおり」が高い「50～54歳」は一方で「そうでない」と思う人も59%と高い結果であった。「どちらでもない」と思う人が一番少ない年代でもあった。

全体としては「50～54歳」が一番「そのとおり」と答え、かつ「そうでない」と思う人も一番低い結果である。

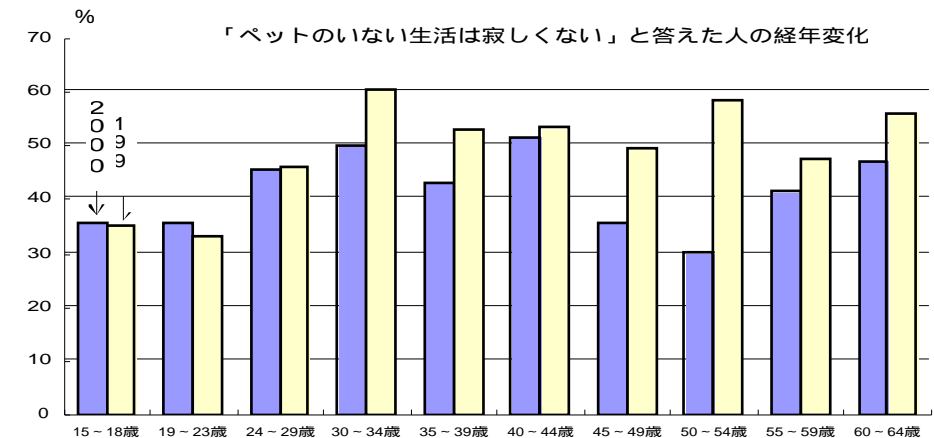
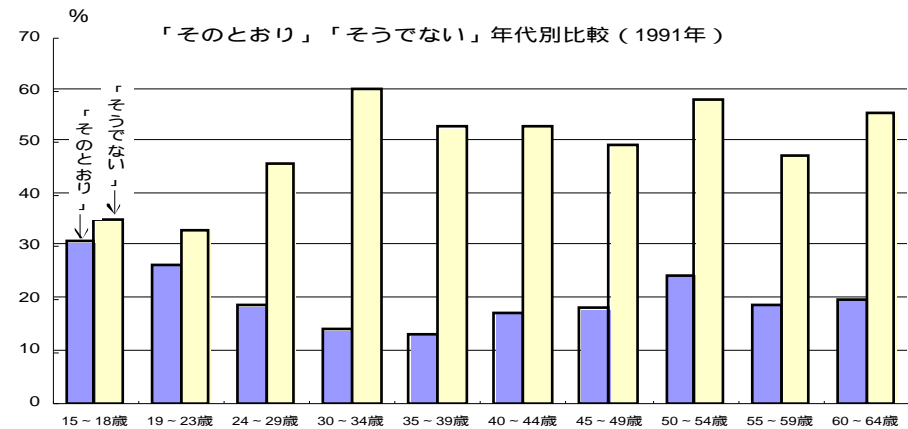
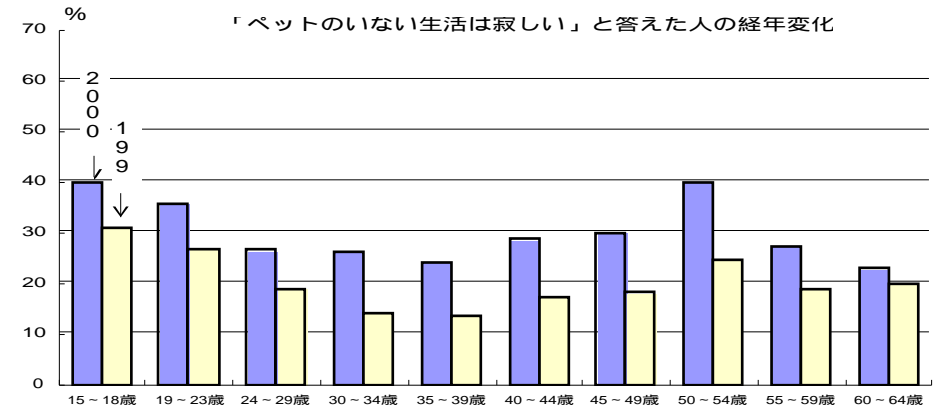
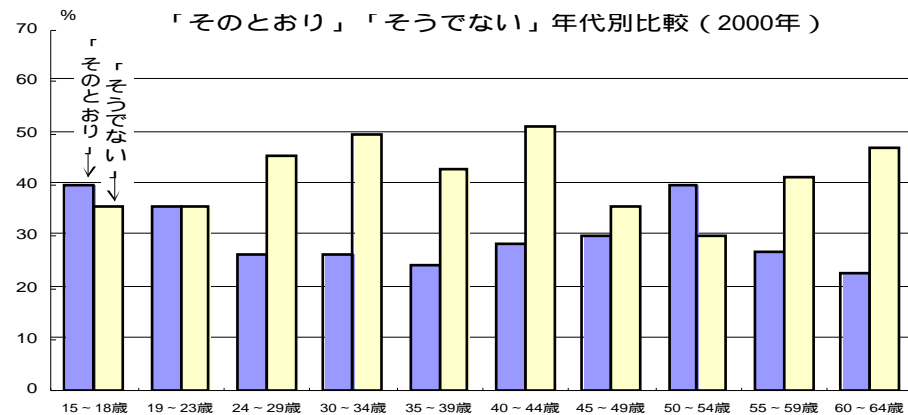
3.4. 10年間の「ペットへの思い」年代別比較

前々ページと前ページのグラフの「そのとおり」と「そうでない」を並べてグラフにすると、左下の二つようになる。左上は、2000年の結果、左下は10年ほど前の1991年の結果である。同じスケールで示している。

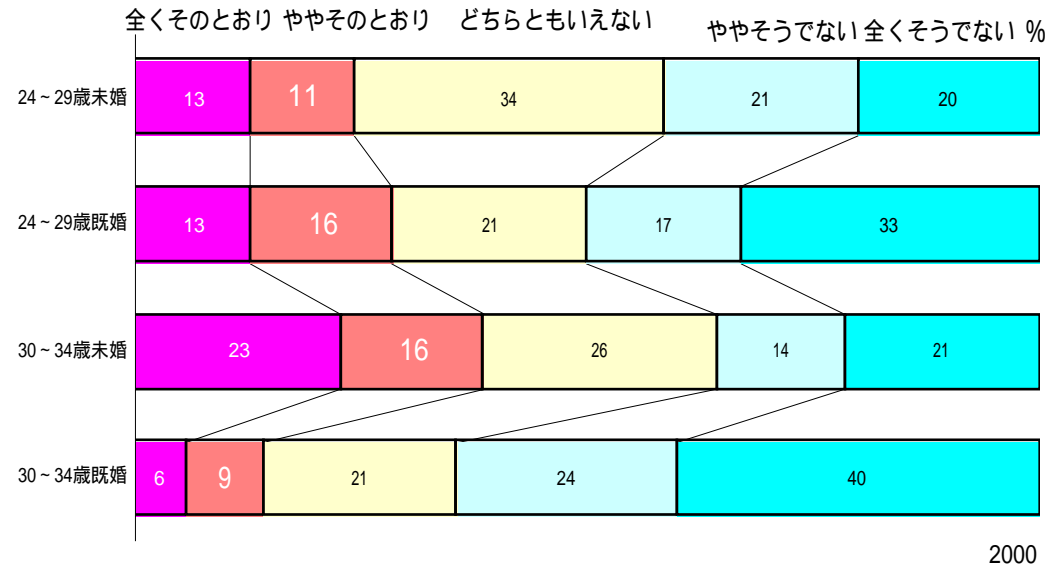
左下の1991年では、「そのとおり」は「そうでない」に比べて高くなることはなく、「そうでない」と回答する人が多かったことを示している。

それに対して左上の2000年のデータでは、「そのとおり」と「そうでない」の差が小さく、ほぼ同じか「そのとおり」が大きい年代が「15～18歳」「19～23歳」「50～54歳」と3つ存在する。

以上のグラフ、右下二つのグラフからも、2000年の肯定派「そのとおり」が増え、否定派「そうでない」が減っていることがわかる。



未既婚による支持率の違い



3.5. 未既婚別比較

本調査では「24～29歳」と「30～34歳」では未既婚別に調査しているため、未既婚による違いを見てみた。結果は左のグラフである。

「24～29歳」では未既婚で違いがなく、「30～34歳」でははっきりした違いが存在した。

同じ未婚者でも「24～29歳」と「30～34歳」で違いがあり、同じく既婚者でも年齢による違いが見られた。

4. 本レポートの結論

以上、ポーラ文化研究所の調査「おしゃれ白書」より、一つの調査項目に注目して結果をまとめてみた。結論は次のようになる。

- (1) 過去10年で「ペットのいない生活は寂しい」と思う人は50%も増えていること、
- (2) 肯定する人には、「高校生」、「50～54歳」、さらには「30～34歳」未婚が多かったこと。

人の寂しさを満たしてくれる存在として、さまざまなペットがこれからも登場しようが、「ペット」を求める思いもまた増加していくのだろう。